

けっこう前のことですが、思わずメモ帳に書き留めたことがありました。それは、4月7日の朝でした。

(元気な明るい声で)
「いっしょに あそぼ まーぜーて」
(すると)
「いーいーよ」

4月7日といえば進級式の次の日でした。

特に私の心が躍ったのは「いっしょに あそぼ」の「いっしょに」でした。並木幼稚園に勤めて5年目でしたが、「あそぼ」の前に「いっしょに」がついたのは、初めてでした。

新鮮でした。いい言葉だと思いました。当然のことながら「一緒に遊びたいんだな」と思いました。改めて、一緒に遊ぶって、素敵なことだな と思ったのでした。そして、一気に飛躍して、世界中が いっしょに遊んだり、仲良くしたりできたらいいのにな、と思ったのでした。

前回の「並木幼稚園だより」で、「1週間前のある番組を視て、急遽変更することにしました。そのお話は、いずれ機会があったときとしまして」と記し、機会が今来ましたので、そのお話について記します。

ある番組とは、現在NHKで日曜夜に放映されている「どうする家康」でした。3月26日に放映された第12回の「氏真」を視て、急遽ネタを変更したのでした。

次は、ネットからの引用です。

～家康が現れる。(今川)氏真(うじざね)は槍(やり)による一騎打ちに挑むが、あっけなく敗北。すかさず自害を試みると、家康が「死んでほしくないからじゃ！ 今も、兄とっておるからじゃ！」と止めに入った。

「昔から、わしを馬鹿にしておったんじゃろうが！」「皆、言っていたそうじゃ。わしの才は、蹴鞠(けまり)をすることだけじゃと。父上も、わしを認めなかった」

そこへ糸(氏真の妻)が現れ、8年前、桶狭間に向かう(今川)義元(氏真の父)の言葉の続きを明かした。

義元「あれに天賦(てんぷ)の才はない、それは明白じゃ。じゃが、余は知っておるぞ。あれが、夜明けから夜半まで、武芸に学問に、誰よりも励んでおることを。あの気持ちを持ち続けるならば、大丈夫じゃろ。己を鍛え上げることを惜しまぬ者は、いずれ必ず、天賦の才のある者を凌(しの)ぐ。きっと、よい将軍になろう。そして、氏真と家康が手を組み、さらに駿河(するが)が栄えることを夢見た。

糸「そのことを、直にお伝えいただけませぬか」

義元「相分かった。この戦から戻ったらの」

父・師の思いを知り、氏真と家康は涙。糸は悪い足を引きずりながら氏真に近寄り「もう、十分でございます。そこから降りましょう。降りて、楽になりましょう。糸は、蹴鞠をするあなた様が好きでございます。勇ましく戦うあなた様より、ずっとずっと好きでございます」と肩に手を添えた。

以上が、ネットからの引用です。

私の辞令交付式での挨拶は、以上のネットからの引用を1ページ目にして、2ページ目には、私の若かりし頃の、心がけない自分への「私のめあて」を引用し、3から6ページには、若かったこ

ろの悪戦苦闘の様子とその後の成長(?)をまとめたのでした。

以上、今回もそうですが、何らかの参考になれば幸いです。

何の抵抗もなく、さも当たり前のようにテレビ番組のことを取り上げましたが、書き終えて思い出しました。社会人になってしばらくは、まして、自分の子どもができてからは、ほとんどテレビを視なかったことを。視る時間がなかったことを。さらに、当時の流行歌さえ知らなかったことを。学生時代までは、思う存分、とことんテレビを視ていた生活が、一変したのでした。今、まさに、保護者の皆様は、テレビをほとんど視られていないのでは? 視るとしても、子ども向けの番組で、聴くとしても子ども向けの音楽なのでは? 当たり前ですが、変わりますね、社会人になると。変わりますね、子どもができること。

不思議です。わが子が小さかったころ、「とにかくたいへんだ!」「とにかく自分の時間がない!」の日々で、幸せ、幸福感なんてほとんど感じていなかったのに、子どもが大きくなってからは、「もしかしたら、あのころがいちばんしあわせだったのかな?」と思うのですから。

令和4年9月に静岡県牧之原市の認定こども園で発生した送迎バスでの園児置き去りにより子どもが亡くなるという事案を受けて、令和5年4月1日から令和6年3月31日までに安全装置の装備の義務付けがなされました。

本園では、5月27日に送迎用のバス3台に安全装置が設置されました。この安全装置は、国の基準に適合したものです。製品の機能は2つあります。

機能1. 置き去り防止

職員がエンジンを停止すると、車内に自動的にメロディが流れます。職員が車内の最後部に設置したボタンを押さないと、メロディは止まりません。職員がバスの最後部まで必ず行くことで、すべての座席の確認を忘れないようにする仕組みです。

機能2. 置き去り監視

万が一、園児が車内に置き去りにされた場合、設置されたマットを踏んだり、SOS ボタンを押すと、バスのクラクションが鳴り(SOSのモールス信号)、周囲に異常があることを知らせます。



安全装置による事故防止も大切ですが、まずは、職員による目視、点検を確実にを行い、事故防止に努めます。

園外保育のときは、乗車前、乗車後、降車後の人数確認はもとより、適宜人数確認をするようにしています。また、水分補給も適宜行うようにしています。



ピアノに、子どもが手や指を挟まないよう、フィンガード(鍵盤蓋開閉補助具)を取り付けました。これは、鍵盤蓋を閉めるとき、ゆっくり閉まるようになっています。鍵盤蓋が手や指に触れてからでも、手や指を抜くことができます。(白鍵の左に設置)